グローバルに考え、ローカルに行動

京都南部環境議員の取り組み

川 口 信 博

今や地球環境は危機に直面しています。私たちの周りを見ただけでも、地球温暖化問題、ダイオキシン問題、電磁波問題、遺伝子組み替え農作物問題、環境ホルモン問題、オゾン層破壊問題等々があります。どれをとらえても、１人で解決できるものは何一つありません。地球の温暖化の影響で日本の食料、枯渇する石油は、もう20年後には由由に世界から買えなくなる状況にあるようです。

京都南部環境議員の会は、地球温暖化防止世界会議（ＣＯＰ３）が京都で行われたのを機会に誕生しました。この会は、それぞれの議員が「環境議員」となって、議会で、地域で、活動することをめざすものです。

議員の活動を支援するため、世界や日本各地の情報・資料を集め、紹介、提供するなど、地球環境の改善のために京都南部の一点から活動を開始したものです。

会の概要と活動内容

この会は、「環境問題は政党政派を乗り越えて、さらに市、町の枠を越えて取り組まねば、前進せず、解決しない」という認識でスタートしています。これからの地球環境問題は、行政においても大きな柱になりつつあります。

そこで、当面、城南衛生管理組合を構成している３市３町（宇治市、城陽市、八幡市、久御山町、宇治田原町、井手町）を中心に、環境問題に関心のある、現職・元・前職議員らで構成しています。

産業界、市民団体、市町民の協賛、協力を得て、学習会開催や議会質問、産業界の取り組み状況の資料集収と提供、紹介、等の活動をしています。

1999年11月からは、活動の一環として、この会の機関誌である京都南部発「地球環境メール」を発刊しました。毎月１回の発行をめざして、会員及び環境に関心をよせる人達に少しでも貢献できればと思い、役員全部で作成しています。２１世紀の社会をリードする議員をめざし、個々の会員（議員）が成長を図っていくことを願った会です。

役員は、各市・町から正・副代表及び、宇治市から会計、久御山町から会計監査を選出してもらっています。

気象状況の変化

当会の八幡市の代表赤川行男氏は、平成12年１月号の「地球環験メール」巻頭言で次のように述べています。

「……周りの気象状況を見ただけでも、秋に桜が花を付けて篤かせ、色鮮やかな紅葉を見せ

ぬままに木々の葉は落ちてしまいました。スコールのように叩きつける雨が多くなりました。秋にうごめく蚊をみると京都南部もマラリアの流行地域になるだろとの科学者達の警告が耳から離れません。ゴミの量を豊かさの象徴として、手軽さを追い求めている内に、私たちは次の時代の気候を変えるところまできてしまったようです。……」
と、周りの気象状況の変化を察知しています。

地球温暖化の認識向上にむけて

京都で行われた地球温暖化防止世界会議（ＣＯＰ３）の際は、各演説会場及び催し会場を飛び回りました。

本会議での各国の代表演説を読みましたが、ツバル（南太平洋の島国）の演説が印象的でした。また1998年11月２日アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで開催された第４回地球温暖化防止世界会議（ＣＯＰ４）に向けて刑行された『国が海に消えていく』（助安由吉著、エイト社）は、世界190カ国の国家元首、アメリカ51州の知事、ＣＯＰ４参加の50の国際機関・事務局等に送られました。

南太平洋の島国ツバルと同じ赤道直下の島々で形成されたキリバス共和国の大統領のメッセージを紹介し、地球温暖化の認識を新たにしたいと思います。

キリバス共和国大統領
テブロロ・シート氏のメッセージ

わがキリバス共和国の人々は、与えられた環境のもと、大地と海と、命あるものと無いものと、すべてと調和した、自然の生き方を楽しんでいる、現今の世界でも数少ない民族のひとつです。

私たちはこの地球上で、来るべき新しい一千年を迎える、最初の民族として、次のような言葉でこの一千年を祝いたいと思っております。

「自然と調和のとれた一千年」という言葉です。

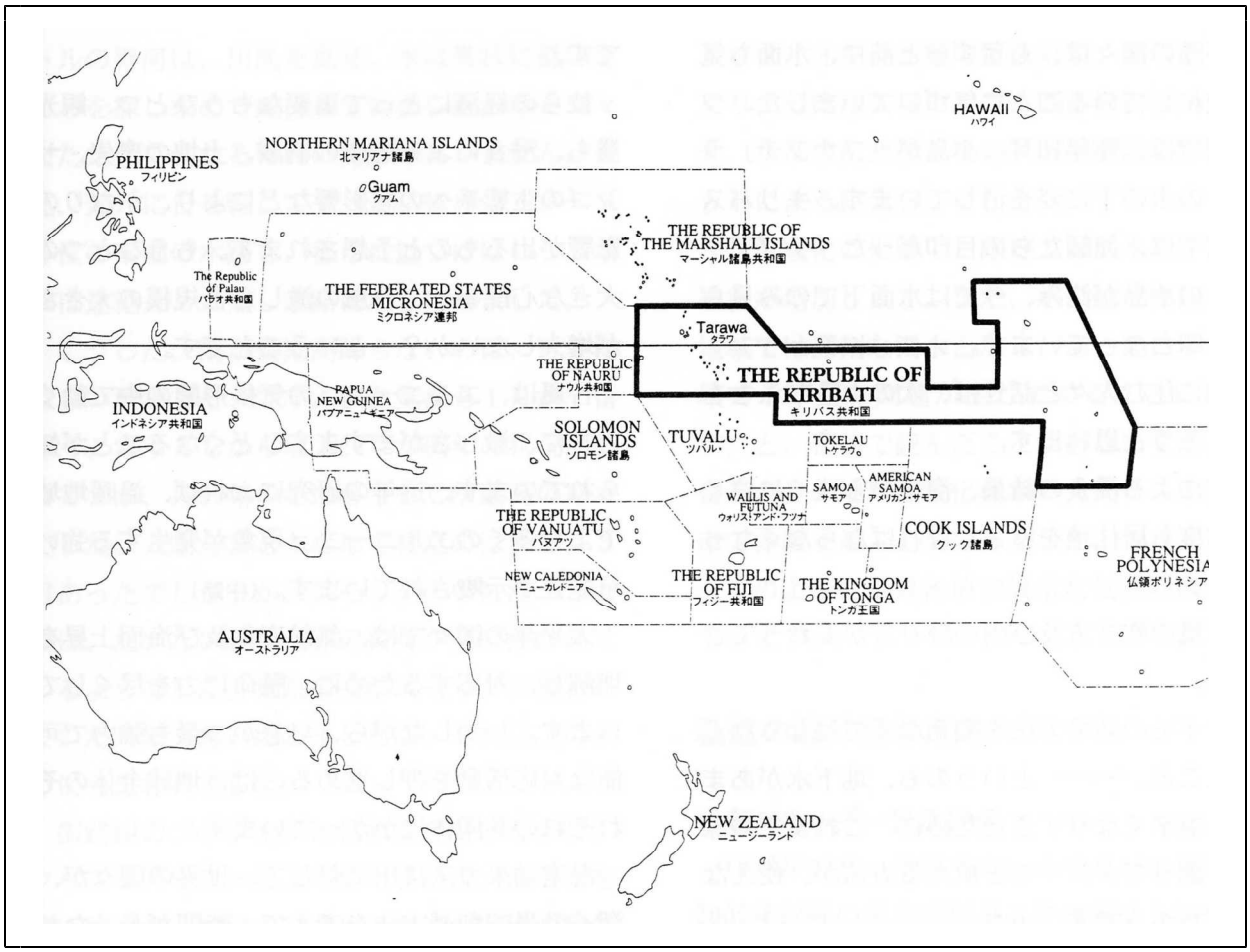
この言葉は、われわれ自身と地球に住むすべての人々が、母なる地球の自然の美しさと豊かさをそのまま守っていくこと、そして、本当の人間の平和は、自然との調和ある生き方からくるのを忘れないようにすること、この２つのことを思い出してもらうための「言葉」です。

「自然と調和のとれた一千年」という言葉で、新しい1000年間を祝おうとした私たちの願いは、キリバスのような低地の島々に住む人々にとっても、来るべき新しい一千年において、将来の安全を十分に保障してくれるはずであった温暖化防止京都会議の失敗により、粉々に打ち砕かれました。温室効果ガスの総排出量の5.5%の削減同意、なんら罰則規定のない排出権取引規約、いずれも失望そのものです。単純に言ってしまえば、過去十数年間地球温暖化の元凶となったほんの一握りの国々が、今後何十年にもわたり、さらに、この地球を汚染し続けるということであり、キリバスや他の低地国が沈もうが存在しなくなろうが、そのような島々に住む人々や政府がどのような災害を被り、どの程度のダメージを受け苦悩しようが、全くどうでも良いということなのです。

京都会議において、すべての代表が声をひとつにして、母なる私たちの惑星をどうしたら守ることができるかと論議できなかったことは、本当に残念でなりません。というのも、参加国のそれぞれが狭い視野で、単に自国の国境線や、ＧＤＰ、失業率等々を守ることに忙しく、地球という惑昼が直面している真の危険や、どうしたら地球を救うことができるか、といったことにまで手がまわらなかったからであります。

（中略）

今や、母なる地球は、私たちの際限のない欲望と欲求とで、すでに深く傷つき倒れかけてい



出所）『国が海に消えていく』（助安由吉著、エイト社）より。

ます。そして、母なる地球は、それぞれが己の利益のみを追求するための相互の争いをやめ、彼女の健康を回復するためた助けてほしいと、静かに私たちに訴えています。

今、母なる地球が、私たち１人ひとりに望んでいることは、彼女がこれまで私たち人類を大切に大切に育んできたように、今度は私たちが彼女を大事に大事にいたわってほしいと思っていること、そして、私たち人類が被女との調和の中で生きることを学んでほしいと思っていること、ただ、これだけなのです。私は、すべての人類の同胞に、そのような母なる地球の運命についてともに考え、ともに行動するように強く勧めるものであります。

と訴える大統領からのメッセージを、探く噛みしめたいものです。

すでに沈みかけている太平洋の島々

南太平洋地域環境プログラム局長のクマリイ・ツタンガタ氏は、『国が海に消えていく』のなかで、次のように述べています。

諸問題の根源たる温室効果ガス排出に、ほとんど寄与していないにもかかわらず、太平洋に存在する国々は、気候変化や海面上昇により、最もダメージを受けやすい国々の一群です。そうした国々は、現在、多種多様の危険に直面しています。とりわけ深刻なのが、海抜の低い島（環礁）に住む国民です。

海抜の高い島に住んでいる人々にとっても、海面の上昇は深刻です。というのも、人口の大半及び各種経済活動は海抜の低い海岸地帯に集

中しているからです。

太平洋の国々は、もうずっと前に、水面も気候も変化していることに気づいていました。ツバル国では、昨年10月、小島が「フナフチ」ラグーンの水の下に姿を消しています。キリバス共和国では、漁師たちの目印だった「テプアタラワ」の小島が沈み、今では水面下でのみ見られる目印となっています。

環礁に住む人々と話せば、次のようなことを話すだろうと思います。

海水による浸食の結果、海岸から遠くに遠くに、何度も居住地を移さなければならなくなったこと。

季節風の吹き方及び雨の降り方が変わってきたこと。

タロイモの栽培方法を変えなくてはならなくなったこと。―― というのも、地下水があまりにも塩辛くなりすぎたために、これまでの深く溝を掘ってタロイモを植える方法が、使えなくなったからです。(中略)

気候科学の専門家たちは、温暖化と気候の変動に伴い、世界のある地域でますます激しい干ばつや洪水に見舞われるだろうとの意見を持っています。

太平洋の環境は特に崩れやすく、そうした地域に住む人々は、やせた土地でどうしたら作物を育てられるか、ほとんど川や小川のないところで、どうしたら「水」を確保できるか、を何世紀にもわたって学んできたのです。(中略)

従来の降雨と風のパターンに変化が起こり、これに伴い、何世紀にもわたって太平洋の島々に住む人々の農業及び漁業を導いてきた「季節」に変化が起こっています。海水の流れや動きの変化は、魚が捕れる「場所」と「量」に影響を及ぼすものと思われます。これは、3000万平方キロメートルに及ぶ海洋の保護者としての太平洋の島々の人々の経済に打撃を与えるだけでなく、彼らの生存そのものに深刻な影響を及ぼすものです。というのも、伝統的に、彼らは栄養学的必要量の90%を魚に依存しているからです。

彼らの経済にとって重要なもうひとつ、観光業も、浸食による海岸の消滅、土地の喪失、サンゴの生態系への悪影響などにより、かなりの影響が出るものと予想されます。もうひとつの大きな心配事は、台風の激しさと規模の大きさが増大しないか？　ということです。

台風は、エルニーニョの気候形態の中で動くときに、激しさがますますひどくなることが知られています。近年の研究によれば、温暖地域でより多くのエルニーニョ現象が発生する強い可能性が示唆されています。(中略)

太平洋の国々では、気候変化及び海面上昇を理解し、対応するために、懸命に力を尽くしています。しかしながら、早急かつ最も強力で可能な対応活動を押し進めるのは、地球全体のそれぞれの共同体にかかっています。

温室効果ガス排出に対して、世界の国々が、深く効果的削減方法を考えて、時間が長くなれは長くなるほど、地球の温暖化、及びその結果生じる気候変化と海水面上昇は増大に増大を重ねていくのです。

と、訴えています。

このことは「地球環境メール」で連載紹介し、地球温暖化の影響が観念的にしか理解できない私たちに、太平洋の鳥々の生の姿・声を聞いてもらい、認識を高めたいと思っています。

地球温暖化の影響
中国咸陽市の場合

私は宇治市の友好都市である中国の咸陽市に１カ月滞在したことがあります。その間、垣間見た環境問題について報告します。

1999年１月６日西安国際空港（咸陽市）に降り立ってから１カ月にもなるのに、雨が１度も降りません。これで、もう４カ月雨が降らない

そうです。咸陽市の南を流れる川幅約500メートルの胃河は、川底を見せ、水は帯状に低いところを探し求めて蛇行していました。水を満々とたたえて流れる胃河の面影はありません。また、郊外に目を転じても、道路脇の幅４メートル位の素堀の水路も、都市に近づけばいつしか水は途絶え、水無し水路になっていました。

こうした、雨が長期間降らないのは、近年にはない現象だそうです。また気温も１月が一番寒く、零下８℃から零下20℃が例年の状況だそうですが、1999年の冬は零下６℃が最高の寒さでした。太陽をまともな形で見たのは、２、３日あったでしょうか。スモッグの中に浮かぶ太陽は、だいだい色した卵の黄身が空に浮かんでいるようでした。東京の空がスモッグに覆われていた時期を思い出しましたが、それ以上のようにも思われました。

街路樹のプラタナスは枯れ葉を付けたまま、クリスマスツリーによく似た塔松は、ほこりを被ったまま、掃除の行き届かない住宅地の屋外階段は、火山灰が降り積ったようにほこりがたまっていました。

このような咸陽市でも、環境問題への取り組みが始まったようです。咸陽市の工場、ビル、住宅の熱エネルギーは、石炭が主力で、日本では見ることがなくなった石炭や練炭を、いたるところで見かけました。まずは、石炭を陝西省でとれる天然ガスに切り替えようとするプロジェクトが始まったようです。

施設の国際入札参加のためか、日本企業の視察団もガス会社を訪問されていたようでした。また咸陽市では、現在ゴミはすべて埋め立てられているそうですが、焼却場の建設計画のため、千葉県成田市の招きで咸陽市経済訪日視察団が編成されました。その際、宇治市にも立ち寄られ、京都南部環境議員の会との懇談の申し入れがありました。

また、城南衛生管理組合の折居清掃工場見学と懇談を希望され、城南衛管の助役や工場長、当会の有志で対応しました。中国側に城南衛管よりダイオキシン類の恒久対策、環境議員の会より大分県津久見市のゴミ固形燃料化施設の紹介、京都市南清掃工場の灰溶融施設のパンフレットによる紹介をしました。

「温暖化の影響で、陸地では洪水や干ばつの被害が増加します。また、水供給で問題のある地域では深刻な渇水となり、あらたに多くの地域で水不足の問題が生じてくることになります」と、書物で読んだことがありますが、教科書どおりの地球温暖化現象の兆候を、中国咸陽市で体験することができました。

このように世界各地で異常な気候現象が起きています。

私達の取り組む方向

1. 新エネルギー普及捉進

1997年12月、世界６カ国の代表が出席して、2000年以降の温室効果ガス排出削減を決めるため、地球温暖化防止京都会議（ＣＯＰ３）が行われました。

2008年から2012年にかけて、先進国は二酸化炭素（CO_2）など温室効果ガスの総排出量を、1990年比で平均5.2%削減することになりました。国別では日本６%、米国７%、ＥＵ８%削減することが国際的に約束されました。

しかし、日本の６%削減案には、原子力発電所を今後20基作ることが大前提になっています。「脱原発」の世界的流れのなかで、１人「原発」を推進してきた日本も、最近の度重なる事故で、計画を見直しすることを通産大臣は発表しました。エネルギー源のほとんどを海外に依存している石油も、自由に日本に入るのは今後20年と言われています。最近の産油国の動向は、その現実味を一段と増しています。

そこで私たちは、エネルギーの使い方を見直すと同時に、クリーンエネルギーである、太陽光発電、風力発電、燃料電池等の開発・普及に、

国・自給体・産業界・市町民も力を合わせて、迫りくるエネルギー危機に対処しなくてはならないと、強く思う昨今です！　と、宇治市代表高橋尚男氏は、「地球環境メール　２月号」の巻頭言で述べています。

2. 循環型社会の形成

首相は、ゴミの減量化とリサイクルが定着した社会づくりに向けた法案を「循環型社会元年」にふさわしいものにまとめ上げたいと国会答弁されました。また、大蔵大臣は、2000年度予算案に「循環」を基調とする経済社会の実現に関連する予算が２兆6000億円盛り込まれていることを紹介されました。

大量生産・大量消費・大量廃棄の社会経済システムによるゴミの増加や、有害化学物質の汚染、地球温暖化など、地球環境悪化への反省から、循環型社会に転換する基本的な法の枠組みを作ろうとする趣旨です。

法の骨子は、廃棄物・リサイクルを一体的に推進し、ゴミの発生抑制、再使用、リサイクルを進める基本理念や、国・自治体・事業者・国民の責務、基本計画と実施状況の点検、経済的助成など、推進すべき施策などが盛り込まれ、個別の関係法の根拠となる基本法として構成されています。

廃棄物の処理やりサイクルについては、廃棄物処理法や、再生資源利用捉進法、容器包装リサイクル法、家電リサイクル法などの法律が個別に整備されています。

ゴミ減量化に向けた取り組みは、最近、活発に進められていますが、根本的な解決にはなっていません。使い捨ての容器・包装がすでに私達の生活の場に氾濫、製造者の廃棄物への責任も明確ではなく、資源循環の経済的な仕組みができていないからだと思います。最終処分他の残余年数やダイオキシンの深刻さを考えれば、循環型社会の形成は地域にとっても急務であり、積極的に循環型社会の形成を推進しようと、城陽市代表山崎稔氏は「地球環境メール」３月号の巻頭言で訴えています。

環境議員の活動成果
環境ＩＳＯ14001認証取得にむけて

京都府は、1999年11月26日環境ＩＳＯ14001認証を全府県レベルで５番目に取得したと発表しました。京都府は、環境ＩＳＯ14001認証取得の意義を次のように述べています.

１．国際的な環境管理の規格にもとづく認証を得ることにより、京都府の行政の仕組みが環境に配慮したものであることが客観的に評価される。
２．府民や事業者の、環境に配慮した取り組みへの動機付けとなる。
３．府庁自ら率先垂範の取り組みを通じ、環境保全についての職員の意識改革が図られる。
４．省エネの徹底による経費節減効果が期待される。

と言うものでした。

私たち環境議員の会有志は、夏季セミナーの環境ＩＳＯ14001の勉強会に参加したり、平成10年９月宇治市議会を皮切りに、城南衛生管理組合議会・城陽市議会で多数の環境議員が連携して、環境ＩＳＯ14001認証取得を訴えてきました。

その結果、３月議会において、宇治市・城南衛生管理組合とも、平成13年認証取得めざして取り組んでいくことを、久保田宇治市長及び木村正孝城南衛生管理組合企画参事が明らかにしました。

環境議員の活動（議会質問）

各議会で質岡をしている項目は、以下の内容です。

１．環境ＩＳＯ14001認証取得に向けて
２．公園、街路樹等の害虫防除に性フェロモン

剤の試行について
3．ダイオキシン対策について
4．仙郷山埋立地のダイオキシン測定結果について
5．散乱ゴミ対策について
6．教育現場におけるゴミ減量化対策について
7．省エネルギー・節電の取り組みについて
8．ゴミの不法投棄について
9．容器包装リサイクル法本格実施につい　て
10．環境ホルモン対策について
11．オゾン層破壊対策について
12．地球温暖化対策について
13．河川に優しい護岸について
14．環境推進委員の設置について
15．美化条例制定について
16．京都第二外環状道路建設に伴う公園・緑化について

ようやく、議会前の意見交換会・資料準備・議会答弁の整理が行えるようになってきました。環境問題は、各界各層幅広く連携協調して取り組むとところに解決の道があると思います。今後は、各界各層との連携をますます深めてグローバルに考え、ローカルに行動していきたいと思います。

（かわぐち　のぶひろ・京都南部環境議員の会事務局長）